

○これまでのご議論等を踏まえ、本WGにおける「質－性能－技術」の関係を以下のとおり整理。

⇒「質」は発注者等が建物に期待するもの(価値)であり、「性能」は発注者等が期待する「質」を建築の観点から専門家(設計者・施工者)が具体化したもの。求められる質を『モノ』『ヒト』『コト』において実現するために必要となる手段・手法が「技術」である。

⇒発注者等は、利用者の属性等を踏まえ“最低限確保すべき質”に加え、“社会的ニーズとして求める質”及び“個別ニーズとして求める質”を選択し、建築の専門家は選択された「質」を「モノ・ヒト・コト」に翻訳し、多様な「技術」によってそれらを実現する。

⇒これからの「質」は「建物(モノ)」だけではなく、非専門家であるつかい手(ヒト)や建物の利用計画(コト)も含めた総合評価に変貌する。



【質/技術WG・とりまとめ(案) ※8月31日時点】

- 技術について、「ハード」と「ソフト」、さらに、それぞれ「既存の技術」と「新しい技術」、「想定内・想定外の技術」に分けて整理。
- ハードを補うソフト的な技術を含めて建物の質・性能を確保していく仕組みの構築を目指す。
- 建築物の安全性を確保しながら、新技術の評価、実証、導入及び普及をスピード感をもって促す仕組みの構築を目指す。
- 既存建物の改修等に係る技術開発を進める。
(特に構造などの安全確保のための技術開発や専門知識・技術のない者でも改修可能な機器や技術の開発など)

